

## 新潟県薬剤師会 薬剤師ボランティア活動報告書

班名	N 班	報告日	平成 23 年 5 月 23 日
報告者氏名	村山 雅和	同行者氏名	武藤 浩司
活動期間	5月 16日 ~ 5月 19日	宿泊場所	石巻市薬剤師会 仮事務所
活動拠点	① 石巻市薬剤師会 仮事務所 ② バイタルネット石巻支店	ジャンプへの掲載	掲載してもよい
交通手段	自家用車		
主な活動 (簡潔に)	女川病院での調剤、投薬業務。 OTC薬の避難所への配布、不必要医薬品回収。		

**\* 石巻薬剤師会仮事務所の現状 \***

- ・寝袋は必要。電気、水道、ガスコンロ使用可能。シャワーは水ならでるが給湯器は現在も故障のためお湯は出ない。
- ・気候も連日20℃程あり寝袋でも問題なかった。
- ・朝食も物資の供給品の備蓄があり水、インスタントコーヒー、パン等が置いてあり食べることができた。しかし、今後は冷蔵庫がなければければ保存は難しい。

### [ 活 動 の 内 容 ]

#### <1日目(5月16日)> 移動日

- 8:00 新潟県薬剤師会集合、出発
- 13:00 バイタルネット石巻支店に到着、石巻薬剤師会の活動拠点の説明や在庫あるOTC薬等の説明を受ける
- 13:30 活動拠点地域の把握のため車で近辺を巡回
- 18:00 石巻市薬剤師会仮事務所に到着、夕方ミーティング 現在の活動内容や翌日の活動体制、引き継ぎについて説明を受ける
- 18:40~ 各自夕食や休憩
- 23:00 消灯

#### <2日目(5月17日)> OTC班として活動(牡鹿半島南部)

- 5:30 起床
- 6:45 朝ミーティング 当日の活動内容の確認 当日帰られる方の挨拶、記念写真の撮影
- 7:40 石巻市薬剤師会仮事務所を出発
- 8:10 バイタルネット石巻支店に到着 活動内容について説明を受け、OTC配達先の確認と配達時間、満潮時の対応等についての説明を受ける
- 10:00~15:30 OTC薬の配達、回収。備蓄薬の確認、必要なOTC薬があるか聞き取り
- 17:00 バイタルネット石巻支店に到着 アセスメント用紙に記載、受注、配達完了用紙をファイルに綴じる
- 17:30 バイタルネット石巻支店出発
- 18:00 石巻市薬剤師会仮事務所に到着、夕方ミーティング 当日の活動内容の報告、翌日の活動体制について
- 18:40~ 当日の活動内容報告書の記載、各自夕食や休憩
- 23:00 消灯

#### <3日目(5月18日)> OTC班として活動(石巻地区西~東松島の一部地域)

- 5:30 起床
- 6:45 朝ミーティング 当日の活動内容の確認 当日帰られる方の挨拶、記念写真の撮影
- 7:50 石巻市薬剤師会仮事務所を出発

8:20 バイタルネット石巻支店に到着 活動内容について説明を受け、OTC配達先の確認と配達時間、満潮時の対応等についての説明を受ける

10:00～16:30 OTC薬の配達、回収。備蓄薬の確認、必要なOTC薬があるか聞き取り

17:00 バイタルネット石巻支店に到着 アセスメント用紙に記載、受注、配達完了用紙をファイルに綴じる

17:30 バイタルネット石巻支店出発

18:00 石巻市薬剤師会仮事務所に到着、夕方ミーティング 当日の活動内容の報告、翌日の活動体制について

18:40～ 当日の活動内容報告書の記載、各自夕食や休憩

23:00 消灯

## <4日目(5月19日)> 女川病院での調剤業務、移動日

5:30 起床

6:45 朝ミーティング 当日の活動内容の確認 当日帰られる方の挨拶、記念写真の撮影

7:20 石巻市薬剤師会仮事務所を出発

8:20 女川病院に到着 活動内容について説明を受ける

8:30～15:30 女川病院にて調剤業務

15:40 女川病院出発

21:30(渋滞のため) 新潟薬剤師会事務所の到着

### 活動内容について

～OTC班としての活動内容、感想～

2日目は4か所、3日目は7か所の避難所にOTC配達、不要OTC薬の回収、聞き取りを行った。

・避難所への配達地区は地域ごとに分担制であり、2～3人でのペアとして活動する。また、女性、男性偏らずにペアになることもひび割れ、がけ崩れなど危険な道路状況を考えると必要である。配達時も牡鹿半島南部では被害が大きいため避難所を探すこと自体にも労力が必要であった。地図等もバイタルネット石巻支店に準備されていたが、避難所ごとのルートや詳細な目印が必要であるためその旨を対策本部にはお伝えした。

・今回のOTC班は以前より活動人数が多く割り振られていたため、4組のペアをつくることができていた。現在はあまりOTCの配達での人数不足は感じられなかった。

・配達時は自衛隊の医薬品供給、赤十字の診療等もあり急配の必要なOTC薬はほとんどなかったが、逆に以前風邪や花粉症流行時に使用しなかった薬が残っている状況も見受けられた。基幹病院の業務再開も一因を担っているようだった。

～女川病院での活動内容、感想～

業務の流れとしては調剤(ボランティア)→監査(薬局長)→投薬(ボランティア)となる。ようやくオーダーリングシステムが稼働したため処方箋は印字発行されていた。調剤は調剤棚があり、薬効順に並べられていた。ピッキングの際に医薬品の場所が分かるように一覧表がファイルに作成されているため容易に探すことができた。また、在庫の位置に関しても同様であった。投薬は薬局長が監査済のものを患者のいる待合所へ行き、名前を呼び椅子まで説明に行く。処方内容の確認が主で状態等の確認はほとんど行わなかった。特に向精神薬処方患者の方には聞き取りしないように注意が必要であった。

印象としては一時期よりは処方箋枚数は下がっているようだが日に100枚以上はあるため忙しく、今後も引き続き支援体制は必要であると考えます。

### 活動を終えての感想

薬剤師としてのボランティア活動は初めてのことであったため自分にどのようなことができるのか不安であったが、避難所の方へ配達の際に、「いつもこうやってボランティアに他県の方が来て頂けることは常々感謝しています。もし今度逆の立場になることがあればすぐにボランティアに行きます。本当にありがとう。」とのお言葉を頂き、こんな自分でも少しでも被災地の方々の役に立つことができたのかを考え、また、薬剤師として求められること、薬剤師としてしかできない継続的な支援を行っていくことは今後も必要であると感じた。